

「薬漬け」にならず経済的に効率よい

Q 二十五歳、経済学大学院生。総医療費の抑制は必要と考えますが、漢方医学を医療経済学の立場から評価した客観的データはあるのですか。

体質・胃腸症状なども考えて当帰芍薬散（とうきしゃくやくさん）一剤で対応できる。これを実際の処方例で医療費を比較すると、漢方医学的医療費が四千七百八十八円、一方西洋医学的医療費は六千八百九十六円との計算がある。

A 西洋医学では病名ごとに治療するので、高齢者のように一人でいくつもの疾患がある場合、ややもすると「薬漬け」になる恐れがある。一方漢方医学ではからだ全体の異常を総合的にとらえて処方される。この方が医療経済学的にみて効率がよいという比較データも出ている。

また、肝硬変は肝臓がんの危険因子である。小柴胡湯（しょうさいことう）には肝臓の繊維化を抑え、肝臓がんの発生を抑えるという疫学的調査がある。例えば、一〇〇〇人の患者さんを五年間治療した場合、西洋医学的治療に比べ約七十億円コストが減るとの推計もある。

例えば、鉄欠乏性貧血の場合、西洋医学ではまず鉄剤を出す。ところが多くの女性が鉄剤を飲むと胃腸障害を招く。漢方医学ではその人の

また島根県のある約二〇〇床の慢性療養型病床群の報告によれば、漢方薬を主体とした医療を試みたところ、患者さんの活動性が高まり、年間約四千万円の経済効果をもたらしたという。